

平成29年3月15日発行

取組状況 (1)

広域避難を考慮したハザードマップの作成・周知等_想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域図の公表

最上川・須川に関する住民説明会を実施【天童市】

～想定を超える降雨時の水害リスクを知り、安全な避難行動を～

最上川・須川の想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域が1月20日に公表されたことを受け、住民説明会を実施しました。

説明会では、山形河川国道事務所から、見直し後の浸水想定区域ならびに浸水深について、また、天童市から、**見直しを受けた洪水発生時の避難場所及び避難ルートについて参加者にご説明し、想定最大規模の洪水が発生した場合の避難について注意を呼び掛けました。**

■ 日時・場所

日付	時間	施設名
平成29年2月22日(水)	13:30～14:30	天童市 蔵増公民館
平成29年2月25日(土)	13:30～14:30	天童市 寺津公民館
平成29年2月26日(日)	13:30～14:30	天童市 成生公民館



住民説明会の様子

■ 出席者 天童市蔵増、寺津、成生地域住民

■ 説明内容 最上川・須川の洪水浸水想定区域等の見直しについて
洪水浸水想定区域等の見直しを受けた避難行動について

取組状況 (2)

広域避難を考慮したハザードマップの作成・周知等_要配慮者利用施設の避難計画の作成

「水防法等の一部を改正する法律案」を閣議決定

～要配慮者利用施設について、避難確保計画作成及び避難訓練の実施を義務化～

近年、全国各地で洪水等の水災害が頻発・激甚化していることに対応し、洪水等からの「逃げ遅れゼロ」と「社会経済被害の最小化」を実現するため、多様な関係者の連携体制の構築と既存資源の最大活用を図る「水防法等の一部を改正する法律案」が、平成29年2月10日に閣議決定されました。

【改正案の概要】「逃げ遅れゼロ」実現のための多様な関係者の連携体制の構築

- ・ 地方公共団体や河川管理者、水防管理者等の多様な関係者の連携体制を構築するため、**大規模汎濫減災協議会制度を創設**。
- ・ 地域の中小河川における住民等の避難を確保するため、市町村長が可能な限り浸水実績等を把握し、これを**水害リスク情報として住民等に周知する制度を創設**。
- ・ **洪水や土砂災害のリスクが高い区域に存する要配慮者利用施設について、その管理者等による避難確保計画作成及び避難訓練の実施を義務化**。

避難確保計画作成・避難訓練の実施率：約2%（716/31,208施設）（2016年3月）

⇒関係者と連携し、2021年までに100%を実現

戦後最大規模「羽越水害」から50年を契機としたパネル展の実施【羽越水害50年実行委員会】 ～洪水に対する防災意識、逃げる意識の向上～

3月4日(土)より、JR山形駅を皮切りに関係20市町をリレー方式で8月末まで巡回するパネル展が始まりました。50年前に発生した「羽越水害」当時の写真や映像などを展示し、**住民自身による自発的な避難行動の重要性や意識の向上につながることを期待しています。**

巡回パネル展オープニングセレモニー

パネルはこちらからご覧下さい！

- 日時 3月4日(土) 11:00～11:30
- 場所 JR山形駅自由通路
- 出席者・羽越水害50年実行委員会
(関係20市町、山形県、山形気象台、国交省)
 - ・山形市立大郷小学校
 - ・報道機関8社
- 内容
 - ・主催者挨拶【東北地整水災害予報センター長】
 - ・20市町代表挨拶【山形市長】
 - ・河川環境防災に係る活動紹介【大郷小学校】
 - ・テープカット

□ パネル構成 (全30枚)

- ・羽越水害を振り返る
- ・羽越水害を契機とした河川整備
- ・河川整備だけでは防げない
- ・リスクを知って身を守る

□ 市民の声

- ・当時の事が蘇る。今一度備えなければならない。
- ・山形市内のゲリラ豪雨映像に驚いた。水の怖さを忘れてはいけない。
- ・災害の激しさがわかる。水害から身を守る方法を家族と話したい。

50年行事



オープニングセレモニー開催状況



テープカットの状況



パネル閲覧状況

編集後記

昨年5月に減災対策協議会を設立、9月に取組方針を策定し、早いもので年度末を迎えました。昨年の台風10号豪雨災害を踏まえた、水防法改正の動きなど、河川防災行政を取り巻く環境はめまぐるしく変化しています。

今後も関係機関と情報共有・連携し、減災に向けた取り組みを着実に進めていきたいと思っております。